

～千年経っても変わらない風景を残す！～

『里山千年基本計画』

第2次計画期間：令和 7 年度～令和 16 年度

＜前期計画＞



令和 7 年 4 月

美濃加茂市

も く じ

里山再生の構成	1
計画期間	1
実施体制・組織	2
美濃加茂市の里山の現状	3
事業評価	8
アクションプラン	17
基本計画実施プログラム	20
●里山整備	21
●森のさんぽ道	25
●里山資源	28
●学び	33
●里山農業	37
●森林公園等の活用	39

里山再生の構成

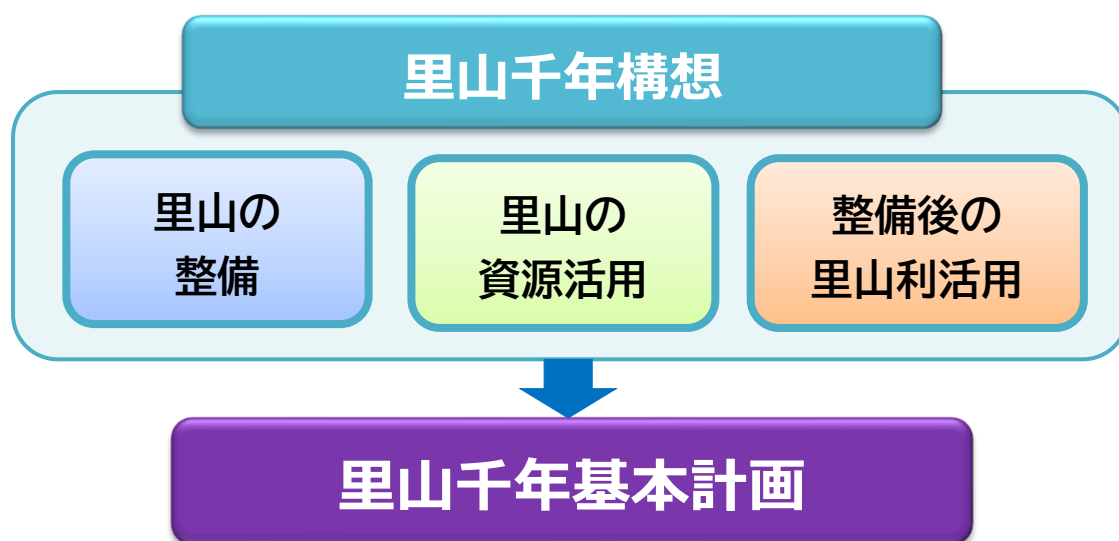
美濃加茂市の里山再生は、「里山千年構想」、「里山千年基本計画」から成り立っています。

【里山千年構想】

荒廃した里山の整備及び維持管理の継続方法、並びに再生された里山の活用方法について検証していくことを提案しています。

【里山千年基本計画】

「里山千年構想」を実現するため、今後 10 年間に重点的に進めていく具体的な内容を「里山千年基本計画（以下、「本計画」）」として定め、具体的な取組を示しています。



計画期間

本計画は、第 1 次計画（平成 27 年度～令和 6 年度、令和 2 年度見直し）を引き継ぎ、令和 7 年度からの 10 年間を計画期間（第 2 次計画）とします。

また、社会経済環境及び森林環境の変化や市森林整備計画等関係する施策に合わせて計画を 5 年ごとに見直し、里山再生活動を継続して行います。

年度		H27 ～R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12 ～R16
第 1 次計画		→						
第 2 次計画	前期計画		→					
	後期計画						見直し	→

実施体制・組織

■地域全体で守り続けていく里山

本計画を達成するためには、里山の利活用を進めていく中で、市全域の森林を計画的に整備し、千年先まで守り続けるために、行政だけではなく森林組合や地域住民等の協働が不可欠です。

そこで、森林所有者だけでなく、地域住民、整備団体、森林組合、学校、企業及び行政等が協働して整備、植樹をする機会を設け、自分たちの手で里山を作り上げ、地域の手で再生するという意識の向上を働きかけます。

持続可能な里山とするためには、地域全体で守り続けていく仕組み作りが必要となります。

森林所有者が個々で管理するだけでなく、『わがまちの里山』として地域住民や学校、企業等が整備された里山を守り続けていくことで『千年先まで続く美濃加茂市の里山』の実現を目指します。



美濃加茂市の里山の現状

■里山をめぐる近年の動向

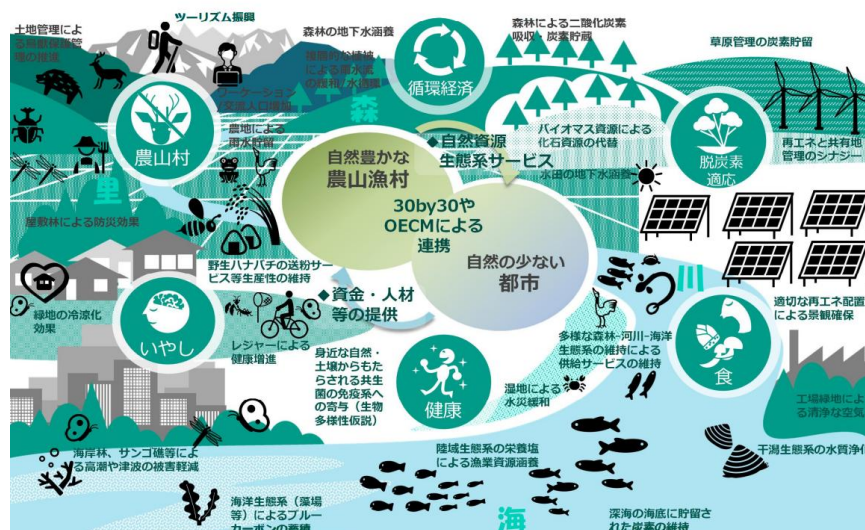
里山とは、都市部と人里離れた山奥の中間に位置する、家屋・集落や雑木林、農地や畑、果樹園など様々な環境から構成される地域です。人々は日々の暮らしの中で里山のあらゆるものを利用し、そして利用・管理されることで、里山の環境が形成され、維持されてきました。平成 27 年度策定的美濃加茂市「里山千年構想」では、里山の風景や、埋もれた里山資源を取り戻し、未来永劫変わらぬ美しいふるさとの風景を残していくことが基本的な考え方として示されています。

里山をめぐる近年の動向として、国の第六次環境基本計画（令和 6 年閣議決定）では、環境保全を通じた現在・将来の国民一人一人の「ウェルビーイング／高い生活の質」を最上位の目的に掲げ、環境の質を上げることによって経済社会が成長・発展できる「循環共生型社会」の構築を目指すこととしています。また、環境・経済・社会すべてにおいて今後 10 年間の選択・対策が将来にわたって影響が大きい「勝負の 2030 年」とし、「30by30（サーティ・バイ・サーティ）目標」達成によるネイチャーポジティブの実現などを戦略として掲げています。

30by30 目標とは、2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として保全する目標で、その達成には、国立公園など保護地域の指定・拡張と合わせ、里山など保護地域以外の生物多様性保全に貢献している場所を認定し 30%に組み込んでいく必要があります。

また、COP21 パリ協定に基づく 2050 年カーボンニュートラルの実現や、気候変動によって激甚化する災害防止などを目的に、国は平成 31 年 3 月に森林環境税と森林環境譲与税を創設しました。森林環境譲与税は令和元年度から市町村と都道府県に対して譲与され、その財源となる森林環境税は令和 6 年度から徴収がはじまりました。森林環境譲与税により、森林整備やそれを担う人材の確保と育成、森林の持つ多面的機能に関する普及啓発や木材利用の促進等の取組が加速することが期待されています。

30by30実現後の地域イメージ ～自然を活用した課題解決～

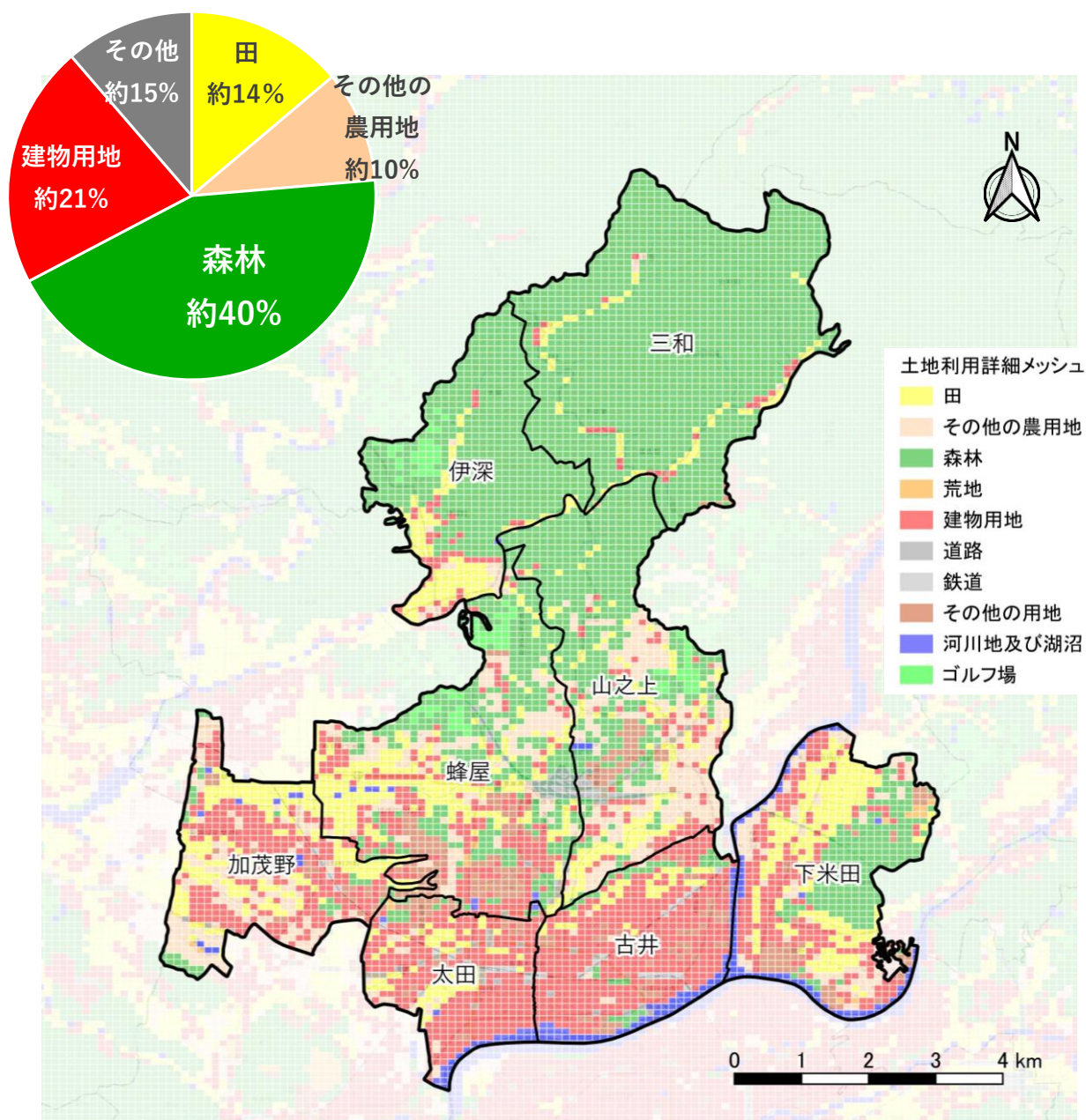


出典：環境省「30by30 ロードマップ」

■土地利用

本市の土地利用状況をみると、市の面積の40%程度が森林となっています。

地区別にみると、南部の太田地区、古井地区では森林はわずかですが、蜂屋地区、山之上地区、下米田地区においては森林と田、建物用地が混在しており、北部の伊深地区、三和地区においては森林のなかに田や建物用地が点在しています。

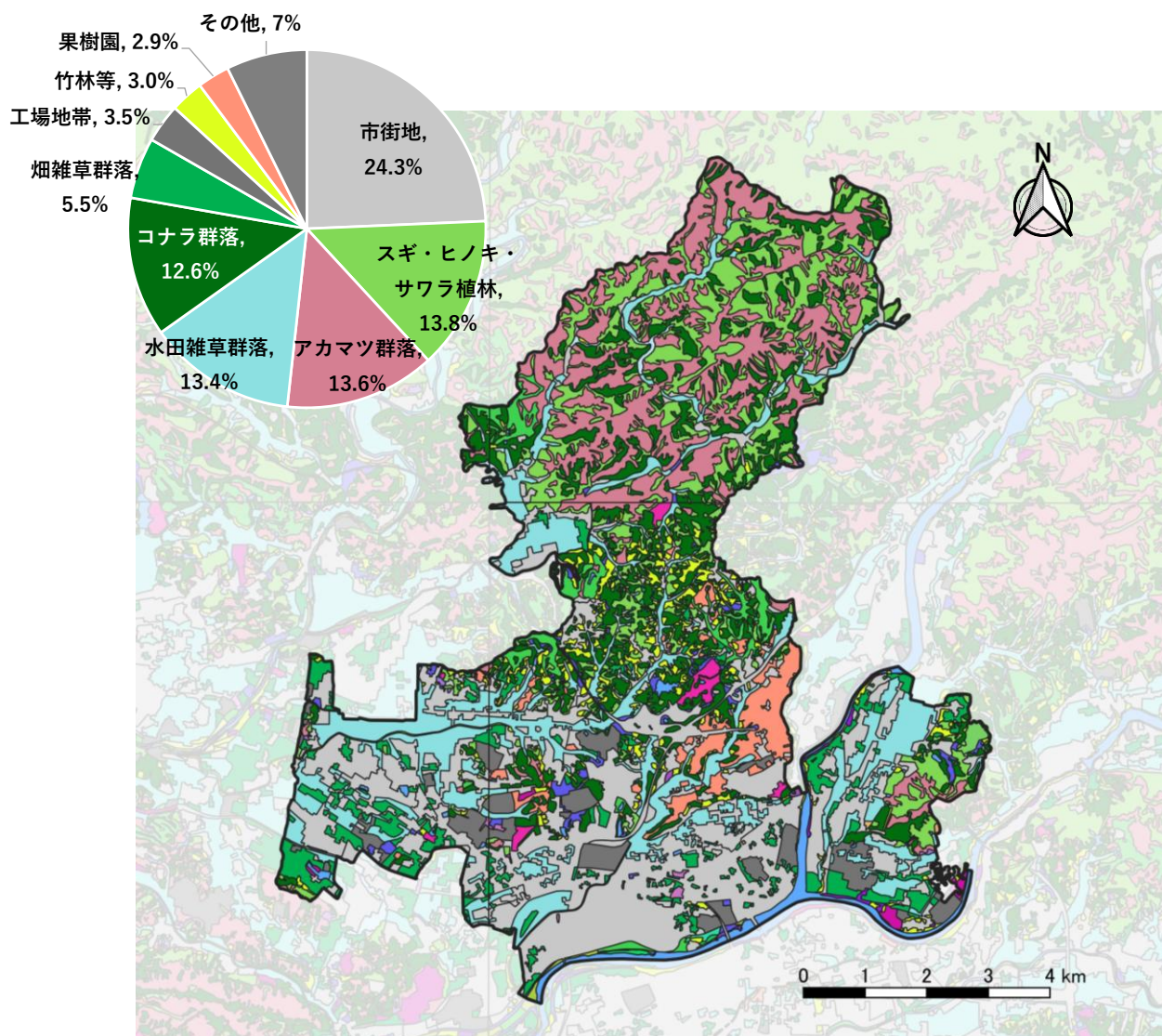


出典：国土地理院「国土数値情報・土地利用細分メッシュ（令和3年度）」を編集して作成

図 土地利用状況

■ 植生

本市の植生分布をみると、木材等資源化等を目的とした人工林であるスギ・ヒノキ・サワラ植林が約 14%、自然林のアカマツ群落、コナラ群落（アベマキを含む）がそれぞれ約 14%、13%、竹林等が 3%を占めています。



植生調査	スダジイ群落	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
アカマツ群落	ハンノキ群落	残存・植栽樹群地
アカメガシワーカラスザンショウ群落	ヒノキ群落	市街地
アラカシ群落	ヒルムシロクラス	自然裸地
クズ群落	ムクノキーエノキ群落	水田雑草群落
ケヤキ群落	モミ群落	造成地
コジイ群落	ヤナギ高木群落	畑雑草群落
コナラ群落	ヤナギ低木群落	放棄水田雑草群落
ゴルフ場・芝地	果樹園	牧草地
シイ・カシ二次林	河川敷砂礫地植生	路傍・空地雑草群落
シラカシ群落	開放水域	竹林等
スギ・ヒノキ・サワラ植林	外国産樹種植林	
ススキ群団	工場地帯	

出典：第 6 回・第 7 回自然環境保全基礎調査植生調査

1/2.5 万現存植生図(平成 11～整備) GIS データ(環境省生物多様性センター)を編集して作成

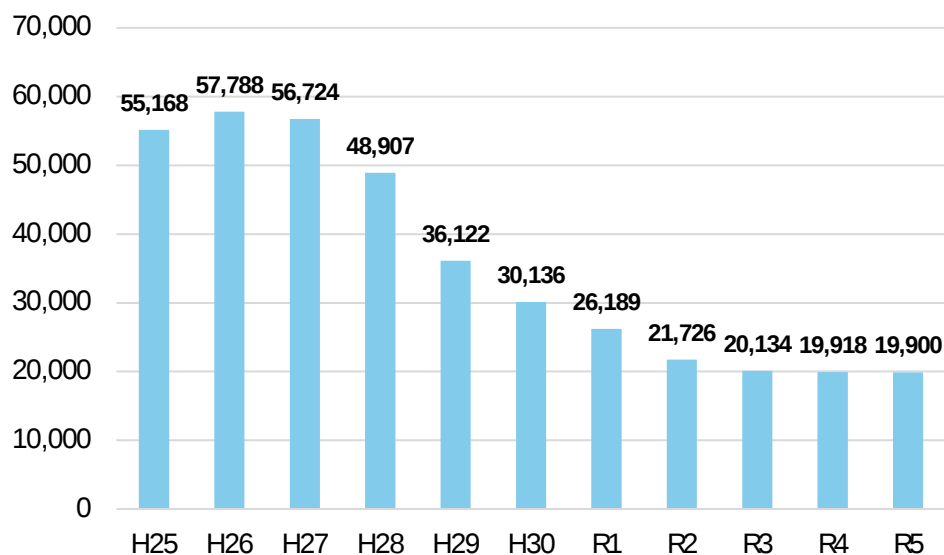
<http://gis.biodic.go.jp/webgis/index.html>

図 植生図

■鳥獣被害

本市の農作物の鳥獣被害額の推移をみます。10年間で被害が最大であった平成26年度と比較して、令和5年度は約68%減の20,000千円程度と大きく減少しています。

これは、有害鳥獣の防除・捕獲対策と合わせて、里山整備事業による里山の適切な管理の効果もあると考えられます。



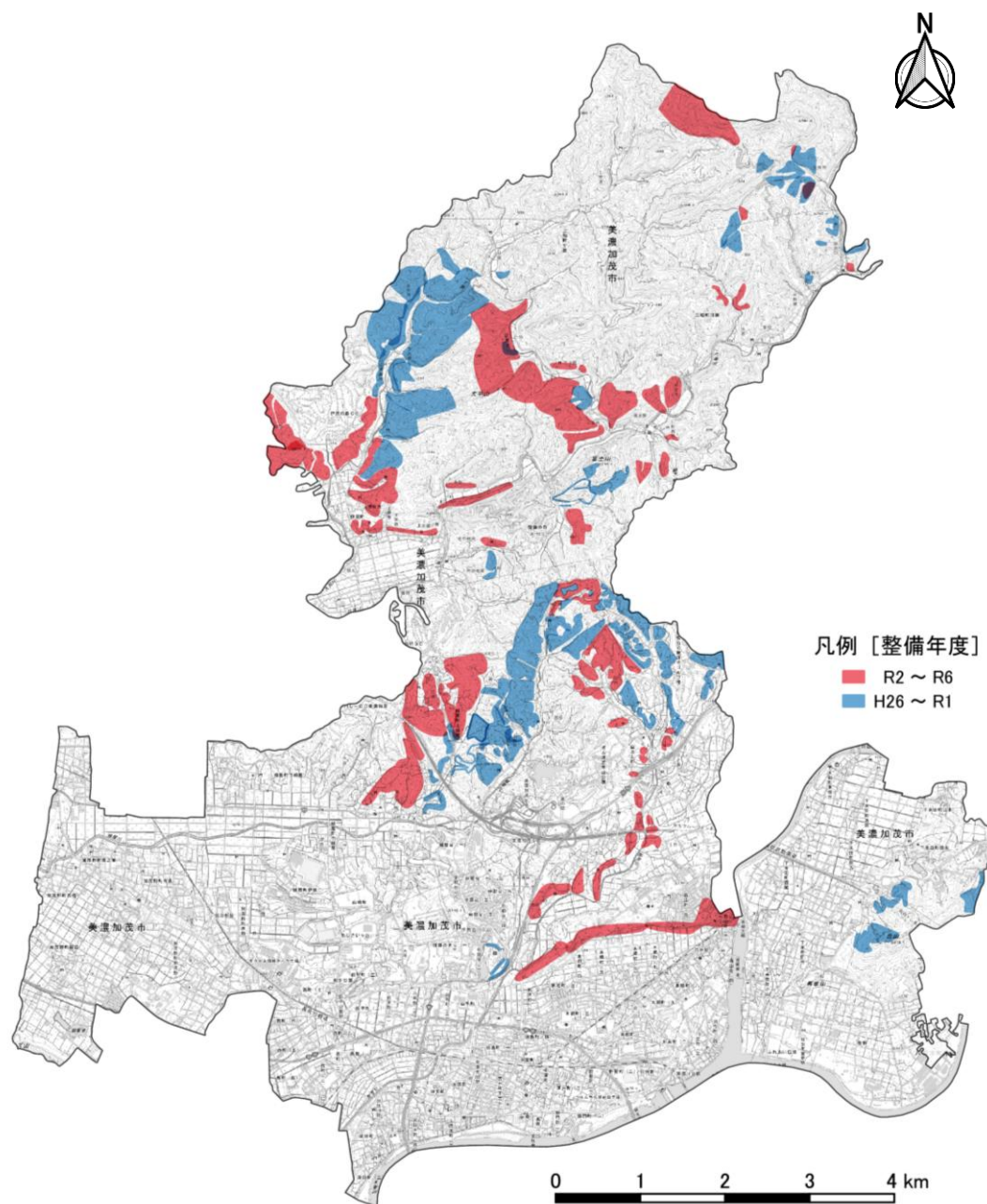
出典：美濃加茂市調べ

図 年度ごとによる農作物の鳥獣による被害額まとめ（単位:千円）



■里山整備状況

以下の図は里山整備の状況を示しています。里山林整備事業と環境保全林整備事業の実施により、森林の快適な環境形成機能や保健・文化機能、生物多様性の保全機能など、多様な公益機能の維持・向上・回復を目指しています。これらの整備によって、地域の自然環境が持つ多面的な機能を保護し、住民生活の環境改善を図っています。



H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
42.80ha	50.92ha	66.85ha	33.98ha	59.85ha	83.40ha	66.12ha	49.12ha	95.32ha	64.04ha	612.40ha

図 森林整備状況

事業評価

■第1次計画における事業評価

平成27年度から令和6年度までを計画期間としている第1次計画では、以下の実施プログラムを掲げていました。

それぞれの事業の実施状況と評価について、次ページより示します。

項目	番号	事業名	事業内容
里山整備	1 - 1	里山整備計画及び森林経営計画	① 里山整備計画
			② 広葉樹を含めた森林経営計画
	1 - 2	里山整備計画及び維持管理事業	① 里山整備
			② 維持管理
			③ 森林空間活用
			④ 里山体験拠点
	1 - 3	里山整備講座及び里山整備ボランティア団体による維持管理事業	① 里山整備担い手育成 ② 整備ボランティア団体による里山維持管理への支援
森の さんぽ道	2 - 1	『みのかも健康の森』を起点とした遊歩道整備等	① 遊歩道整備準備
			② 遊歩道整備
			③ 遊歩道維持管理
	2 - 2	『森の案内人』養成講座	① 「森の案内人」養成講座 ② 自然歩道MAP
里山資源・ 里山STEAM	3 - 1	「美濃加茂市産材」として「アベマキ」「竹」を活用	① 「学校机プロジェクト」
			② 「竹」活用
			③ 樹種調査及び広葉樹の木材生産林推進
	3 - 2	アベマキをはじめとする美濃加茂市産材製品の多様化	① アベマキ製品の流通
			② アベマキ木材生産林
			③ その他広葉樹の製品化研究
	3 - 3	森林空間活用（森林サービス産業）	① 学びの場
			② 癒しの場
			③ 多様な森林空間利用
	3 - 4	里山STEAM	① 美濃加茂市の里山と企業連携（美濃加茂フィールド）
			② 最先端技術を活用した企業の地域課題解決
			③ クラウドファンディング
こども	4 - 1	森のようちえん	① イベント型「森のようちえん」
			② 市内保育園利用推進
			③ 自主運営団体活動支援
	4 - 2	校外学習の場、自然ワークショップ	① 校外学習の場
			② 自然ワークショップ
	4 - 3	木育ひろば	① 「木育ひろば」の設置、増設
			② 「出張木育ひろば」の開設
			③ 木のおもちゃ購入補助事業実施
			④ 美濃加茂市産材のおもちゃ制作
			⑤ 「はじめての木のおもちゃ事業」
やぎさん	5 - 1	「やぎさんのいる風景」	① 「やぎさん除草のための木柵設置」補助事業
里山農業	6 - 1	「里山農業」	① 里山整備＋水稻
			② 水稻無農薬栽培
	6 - 2	「堂上蜂屋柿の里」	① 堂上蜂屋柿の里の整備
里山体験 活動拠点	7 - 1	里山体験の交流拠点	① 里山体験の場
			② 都市部での里山体験
	7 - 2	グリーンウッドワーク	① 簡単グリーンウッドワーク
			② 本格的グリーンウッドワーク

◇里山整備◇

1-1 里山整備計画及び森林経営計画

① 里山整備計画

地域の意向を踏まえ整備区域の決定後、森林所有者、地域住民等と協議を行いながら、地域住民による整備後の持続可能な維持管理の仕組みを作っています。

平成 27 年度から継続して里山林整備事業、環境保全林整備事業を実施し、その後は地権者や地元の自治会等団体が維持管理しており、活動団体数も年々増加しています。

② 広葉樹を含めた森林経営計画

令和 3 年度に市内全域の樹種調査を実施し、あわせて森林所有者意向調査も実施しました。森林経営計画の策定は、経営が成り立つ森林の確保が難しく市内に多い広葉樹での森林経営は採算が合わないことから実施に至っていませんが、令和 4 年度から上廿屋地区をモデルケースに市独自の広葉樹における営林に取り組んでいます。

→今後の方針【継続】

1-2 里山整備計画及び維持管理事業

① 里山整備

1-1 に掲載したとおり森林整備を継続して実施しています。企業と連携した森林整備（企業林）は、豊田合成株式会社による企業の森（4 期約 9.5ha）をはじめ、株式会社デンソーワイズテック（約 2.6ha）、社会医療法人厚生会（約 3.5ha）、富士通 Japan 株式会社（約 5.4ha）、その他実施に向けて調整中の箇所もあり拡大しています。

② 維持管理

整備団体・森林所有者・地域住民による維持管理を市の補助金を活用して実施しており、森林整備を行う団体は年々増加しています。

令和 2 年度、3 年度に米田白山、令和 4 年度は三和町川浦地内で、遊歩道（森の散歩道）の新設を行い、令和 5 年度は既存の遊歩道を修繕し、まちづくり協議会、地域団体などにより利用されています。

③ 森林空間活用

「森のようちえん」「森オフィス」「森の居場所」等を市内の山林、森林公園を活用し実施中です。また、民間事業者による事業も実施されています。里山 STEAM 事業の実施、企業の森等を加茂農林高校生が実習の場として利用するなど森林空間活用が進んでいます。

④ 里山体験拠点

里山くらし体験（里山シュレー事業）や森の散歩道を活用した「里山さんぽ」などを開催しています。

→今後の方針【継続】

1-3 里山整備講座及び里山整備ボランティア団体による維持管理事業

① 里山整備担い手育成

里山整備講座を継続して実施しています。里山林整備事業等にて整備した地区をフィールドに、今後の維持管理を担う人材を育成しています。

一般希望者も整備ボランティアとして活動に参加しています。

② 整備ボランティア団体による里山維持管理への支援

里山整備に関する実費の補助、鳥獣被害防止対策補助金、里山千年構想推進業務補助金など県補助事業活用の周知を行っています。

また、ボランティア団体などが生産する薪の活用を推進するため、薪ストーブ設置補助事業を令和4年度まで実施しており、令和5年度からは薪の購入に対する補助事業を創設しました。

里山ポイントなど新たな交流システムの導入には至っていませんが、里山整備講座を通じた多様な世代へのアプローチや企業の森事業を通じた広域での交流などが進められています。

→今後の方針【継続】

◇森のさんぽ道◇

2-1『みのかも健康の森』を起点とした遊歩道整備等

① 遊歩道整備準備

遊歩道予定ルート現地確認（コース確認、測量）、森林環境税等申請、森林所有者確認と事業説明会等を行います。

② 遊歩道整備

事業説明会や森林所有者への個別説明と協定を行い、その後遊歩道を整備します。令和4年度には県補助事業を活用し、山之上町内富士山から三和町川浦へつながる遊歩道を新設しました。

③ 遊歩道維持管理

維持管理作業や関連する里山整備講座やウォークイベント等を実施します。新設された山之上町内富士山から三和町川浦へつながる遊歩道は、みのかも健康の森やぎふ清流里山公園へつながる遊歩道としての活用が見込まれます。また、まちづくり協議会、小学校、高校、医療法人等による利用実績があり、今後も利活用が期待されます。

→今後の方針【継続】

2-2『森の案内人』養成講座

① 「森の案内人」養成講座

本市の里山の中をフィールドとして、都市圏等から訪れる人々や小中学校の授業等で里山の中を歩き、里山の楽しみ方、里山の木々たちの働き等を伝える「森の案内人」を育成します。令和2年度に文化庁の補助事業を活用して、里山など地域の自然資源等を活かした観光づくりに関する講座を実施しました。

② 自然歩道 MAP

「森の案内人」がつくるみのかも健康の森を起点にした、みのかも自然歩道マップの作成を進めています。

まちづくり課と連携し、外部講師を招いた森の案内人ツアーを年数回、みのかも健康の森、東山森林公園下米田さくらの森で実施しています。

→今後の方針【継続】

◇里山資源・里山 STEAM◇

3-1「美濃加茂市産材」として「アベマキ」「竹」を活用

① 「学校机プロジェクト」

本市の里山には広葉樹が多くあり、その中でも多い「アベマキ」を利用した木製品を作り「美濃加茂市産材」を広く PR しています。

山之上小学校にて、学校机として利用するプロジェクトを継続実施しており、さらにブックスタンドにも展開しています。これらはテレビ取材やウッドデザイン賞受賞など高く評価されています。また、令和 3 年度から三和小学校、伊深小学校でも実施しています。

② 「竹」活用

伐採した竹を破砕したチップを活用した新たな製品製造を、連携企業とともに進めています。

③ 樹種調査及び広葉樹の木材生産林推進

樹種調査を令和 3 年度に実施し、モデル地区を設定の上、森林経営計画の策定にむけた事業を拡大していく予定です。

→今後の方針【継続】

3-2 アベマキをはじめとする美濃加茂市産材製品の多様化

① アベマキ製品の流通

ふるさと納税の返礼品として活用しており、ラインナップの充実を図っています。一部はファッションブランド BEAMSJapan の監修を受け展開しているほか、名古屋テレビ塔イベント、東京インターナショナル・ギフト・ショー等に出展し PR しています。

② アベマキ木材生産林

広葉樹を含めた森林経営計画策定に向けた取組を進めています。また、苗木生産を「みのかも定住自立圏共生ビジョン」の事業として実施しており、啓発や苗木の配付のほか、さらに学校机プロジェクトにて植樹をしています。

③ その他広葉樹の製品化研究

薪やしいたけ原木への活用やアベマキ突板（表面アベマキ、内部スギ・ヒノキ）の開発など、広葉樹の製品化を目指して事業を展開中です。

→今後の方針【継続】

3-3 森林空間活用（森林サービス産業）

① 学びの場

「森のようちえん」として、市事業・民間事業をあわせて継続して実施してきました。市事業については令和 5 年度から民間事業者へ委託しています。「木育ひろば」についても、稼働中であり、その中でもみのかも健康の森については木製おもちゃ等を増やしています。

「森のしょうがっこう」として、山之上小学校にて森林文化アカデミーと連携して実施中です。そのほか、グリーンウッドワークをみのかも健康の森におけるイベントとして実施しているほか、里山整備講座も開催しています。

② 癒しの場

前述の「里山さんぽ」や、「里山 STEAM 事業」における星の見える場所、令和 3 年度及び令和 4 年度の里山整備講座における竹林内のバンブーデッキづくり等、教育機関及び

民間企業と連携しながら実施しています。

③ 多様な森林空間利用

「森オフィス」として、みのかも健康の森の屋内外に Wi-Fi を設置しました。企業の森に関する打合せや企業のワーケーション時の通信手段に活用しています。

→今後の方針【継続】

3-4 「里山STEAM」

① 美濃加茂市の里山と企業連携（美濃加茂フィールド）

里山事業への企業参加、加茂農林高校の授業との連携（樹守の里活用）、里山資源活用調査・研究として OWL（森林 3 次元計測システム）実証実験、京都大学天文台等との連携、有害鳥獣被害防止につながる調査・研究として竹チップ吹付の事業化に向けた効果検証を進めています。

② 最先端技術を活用した企業の地域課題解決

農林業のスマート化として、下刈りや森林調査等に OWL 実証実験を実施しています。また、農地除草や有害鳥獣被害対策として竹チップ舗装・吹付を実施しました。またスマート農業を活用した担い手導入として堂上蜂屋柿の干し柿技術伝承のためのシステム構築に取り組んできました。

③ クラウドファンディング

令和 3 年度に実施し、7,000 千円ほどを集めました。この資金は STEAM 事業に活用されています。

→今後の方針【里山資源を活用した企業連携にて継続】

◇こども◇

4-1 森のようちえん

① イベント型「森のようちえん」

整備された里山の中で「森のようちえん」を開催し、自然体験を重視した保育を行っています。遊具など作られたものがない里山内でこどもたちが自分たちで考えながら遊びをつくりだす「森のようちえん」では、こどもたちの思考力や創造力が育まれます。また、連携している企業とも合同で企業林内でも実施し、広く「森のようちえん」の大切さを発信しています。

② 市内保育園利用推進

市内保育施設が周辺の里山を利用しており、令和 6 年度には森林文化アカデミーに保育士を派遣し、その展開が期待されます。

③ 自主運営団体活動支援

「森のようちえん」の活動場所を整備するために、市補助金制度を用いた団体活動の援助をしました。

→今後の方針【継続】

4-2 校外学習の場、自然ワークショップ

① 校外学習の場

整備された里山を小中学校等の校外学習の場として利用しています。アベマキ学校机プロジェクトと合わせ、林業見学や伐木材活用など森林に関する授業を実施しています。

② 自然ワークショップ

樹木の伐採・植樹について整備講座を実施しています。みのかも健康の森にて自然観察会を実施し、里山での生活体験等も行っています。

→今後の方針【継続】

4-3 木育ひろば

① 「木育ひろば」の設置、増設

みのかも健康の森での「木育ひろば」を実施中です。木製おもちゃ等を随時増やしています。そのほか、図書館にて木製本棚を活用したイベントを実施（R5.7）、健康プラザ内での、木製おもちゃ（ままごとセット、森林文化アカデミー作成）の支給など事業を展開中です。

② 「出張木育ひろば」の開設

市民まつり、環境フェア、みのかも健康の森イベントなどに出展し、緑化推進事業、木工ワークショップの実施、苗木の配付、薪割り、その他啓発活動を実施しています。

③ 木のおもちゃ購入補助事業実施

木育広場設置補助事業を令和4年度まで実施しました。

現在は木のおもちゃを購入する補助事業を展開しています。

④ 美濃加茂市産材のおもちゃ制作

アベマキパズルを製作し、各所に配付しました。

⑤ 「はじめての木のおもちゃ事業」

令和5年度から木育スタート事業として実施しています。

→今後の方針【継続】

◇やぎさん◇

「やぎさんのいる風景」

① 「やぎさん除草のための木柵設置」補助事業

里山の中で「やぎさん」がいた風景を守り、「草刈りやぎさん」の認知度を高めて里山の維持管理をするやぎさん除草を推進するため、「やぎさん除草のための木柵設置」を令和4年度まで支援しました。

→今後の方針【維持管理で継続】

◇里山農業◇

6-1 「里山農業」

① 里山整備＋水稻

森林組合が伐木チップを堆肥として活用する事業を展開し、市内農業者と連携して実証実験を行っています。そのほか、竹チップ吹付の実証に取り組んでおり、法面などで施工実績をあげています。

② 水稻無農薬栽培

企業と連携し、令和2年度、令和3年度に市内農業者の圃場にて実施しました。

→今後の方針【継続】

6-2 「堂上蜂屋柿の里」

① 堂上蜂屋柿の里の整備

場所の選定や事業内容を含め、JAや堂上蜂屋柿振興会等との協議を行います。

堂上蜂屋柿の普及啓発については、里山STEAM事業にて堂上蜂屋柿の技術伝承のためのデータ収集及び品質判定のためのAI活用を実施しました。AI活用については、加茂農林高校とも連携しています。

→今後の方針【継続】

◇里山体験活動拠点◇

7-1 里山体験の交流拠点

① 里山体験の場

里山体験の拠点となるみのかも健康の森において、さまざまな里山体験を行っています。みのかも健康の森を起点とした遊歩道を整備することで、本市の里山ウォーキングコースの玄関口とし、訪れた人々の交流の場にします。ウォークみのかもの実施、ウォーキングアプリへのコース登録、企業の森活動でのみのかも健康の森利用（オリエンテーリング）など、活用の中としての利用が拡大しています。

② 都市部での里山体験

企業及び都市部での出張イベント、井戸畑公園（古井）でのノコギリ体験、薪づくりなど、出前イベントを実施しています。

→今後の方針【継続】

7-2 グリーンウッドワーク

① 簡単グリーンウッドワーク

みのかも健康の森にてイベントを実施しています。簡単イベントは、こどもから参加でき、家族単位での参加があります。鉛筆、スプーン、笛づくりなどを体験してもらっています。

② 本格的グリーンウッドワーク

みのかも健康の森にてイベントを実施しています。三本足スツールなどの製作に取り組んでもらっています。

→今後の方針【継続】

■第1次計画における特徴的な取組

第1次計画に基づいて実施した各種事業について、本市の特徴的な取組や成果を以下のように整理しました。

◇里山の整備

地域の里山を地域で守り続けるため、各地域で活動団体が発足し実情にあった取組が展開されています。

合わせて、企業連携による里山整備・活用の取組も積極的に推進しています。

- ・企業や団体が里山整備や研究活動を実施
- ・都市部企業との CSR 活動やイベント連携
[1-1、3-4、6-1 等]
- ・企業・団体と連携した竹チップ利用の促進、
研究・技術支援 [3-1 等]



◇里山の資源活用

本市の里山は、アカマツ群落、コナラ群落（アベマキ含む）といった広葉樹主体の自然林中心の構成であることが特徴です。

一般的には資材活用が難しいと言われる広葉樹主体の自然林を活かした里山資源の活用を進めています。

- ・「学校机プロジェクト」によるアベマキ材の利用とブランド化 [3-1、3-2 等]
- ・竹チップ事業を通じた土壌改良材や雑草防止材の活用 [3-1 等]
- ・里山 STEAM を活用した教育プログラムや次世代育成 [3-4 等]



◇整備後の里山活用

里山の大切さを知り、心豊かなこどもが育つ場として里山を活用する取組を進めています。

- ・「みのかも健康の森」を拠点とした遊歩道整備やウォーキングコース設置 [2-1 等]
- ・森のようちえん、里山 STEAM を活用した教育プログラムや次世代育成 [3-3、3-4、4-1 等]
- ・グリーンウッドワーク、自然観察会など、地域住民と都市部住民をつなぐ交流事業 [4-2、7-1、7-2 等]



■第1次計画の実施状況を踏まえた課題

第1次計画に基づき実施した各種事業の結果を踏まえ、本計画の実施プログラム検討における課題を整理しました。

課題1 里山整備後の継続管理

里山整備事業は継続的に実施していますが、その後に雑木や竹林が再び繁茂している箇所がみられます。

これは特にバッファゾーン整備箇所に多く見られ、一旦は整備されるが、日照がよくなるため、伐採後再び竹木が繁茂するという状況になりやすいためであると考えられます。

地元団体がこまめに下刈を続けていますが、一旦繁茂するとそれ以降手が付けにくい状況となっており、再度、官民協働で整備を実施し維持管理できる体制を構築することが必要です。

合わせて、維持管理・保全における目的が明確でないと作業をする意欲や意味を見出せないことも要因となっており、産出材の活用や遊歩道など森林サービス化など有価値化することで活動が継続する取組を進める必要があります。

課題2 美濃加茂市産材としての「竹」活用

美濃加茂市産材として「アベマキ」の活用が比較的順調に進んでいるのに対し、竹林の整備で発生する伐採竹については活用促進と収益化の取組強化が必要です。

灰やにがりと合わせて土壌基盤材として活用し、収益を森林整備に充てることで持続的な里山整備と里山資源の付加価値化を図っていきます。

事業で製造される竹チップや竹パウダーなどの土壌基盤材は、防草・獣害被害防止などで有効性が期待され、みのかも健康の森園内や市内農業者圃場ほか法面（蜂屋町、伊深町地内ほか）等で施工を実施しているものの、製品化に向けて、価格や耐久性を検証しています。

コスト抑制の方法を模索するとともに、竹資源の有効活用や循環形成（地域の竹林整備からの地域での農業、環境保全利用）であることをPRし、利用を促進させていく必要があるといえます。

課題3 多様な里山整備・活用の担い手の育成

里山を地域で守り続けるため、各地域で活動団体が発足し、地域の実情にあった取組が展開されていますが、一度整備をしても継続的な管理を怠るとすぐに状況が悪化することは課題1に挙げたとおりです。里山整備・活用に関連する市各部署が連携するとともに、多様な資金を活用して、継続的に里山を整備し、管理し、活用する仕組みと体制づくりが必要です。

地域の里山を地域で守ることも重要ですが、地域のチカラのみでは難しい場合には市内・市外を含めた地域の方や企業との連携、大学連携など若い世代の参加促進を図る必要があるほか、活動継続のための財源の確保（収益事業・自主財源含む）も必要となります。

アクションプラン

本市の目指す里山を実現させるため、今後 10 年間のアクションプランを設定しました。

アクションプランは、「里山千年構想」で示した里山再生基本政策を踏まえたうえで、重点プロジェクトと実施プログラムで構成されます。

<里山再生基本政策>

里山の整備	計画的に面整備を行い地域全体を整備します
里山の資源活用	里山にある資源を有効活用します
整備後の里山利活用	整備された里山の利活用を推進します

■重点プロジェクト

第 1 次計画の実施状況と評価、課題を踏まえ、本計画における重点プロジェクトを設定しました。

プロジェクト 1: 里山整備・維持管理体制の強化

里山の整備

- ・ 継続的な管理を行う体制づくり
- ・ 資金確保
- ・ 補助金や収益の還元モデルの確立

プロジェクト 2: 里山資源の高付加価値化

里山の資源活用

整備後の里山利活用

- ・ 広葉樹製品（家具、薪、シイタケ原木）の市場拡大とブランド化
- ・ 竹チップ事業の改良（価格競争力と耐久性の向上）
- ・ 観光と教育の連携強化
- ・ クラウドファンディングやふるさと納税などを活用した資金調達
- ・ 森林空間を活かした新しいサービス産業（テレワーク拠点）の創出と具現化

プロジェクト 3: 健康、教育、遊び場としての里山活用

整備後の里山利活用

- ・ 里山ウォーキング、トレランコース、遊歩道などのさらなる整備
- ・ 森のようちえんや里山を活かした利用の規模拡大と都市部学校との連携

プロジェクト 4: 企業との協働モデルの推進

里山の整備

里山の資源活用

- ・ CSR 活動として長期的な企業参加の促進
- ・ 里山と調和した企業立地の推進
- ・ 都市部企業の長期的な関与の引き出し
- ・ 技術協力や製品開発を通じた里山資源活用の多様化

プロジェクト 5: 新規担い手の育成

里山の整備

整備後の里山利活用

- ・ 若年層をターゲットにした体験プログラムや教育機会の提供
- ・ ボランティア活動のインセンティブ化（交流ポイントや報酬制度の導入）

重点プロジェクトと実施プログラムの関係

事業評価を踏まえ、本計画の実施プログラムを以下のようにとりまとめました。

重点プロジェクトは、複数の実施プログラムが連携することで達成を目指します。

項目	番号	事業名	事業内容	重点プロジェクト				
				① 管理 里山 体制 整備 の・ 強 維 化 持	② 高 里 山 加 付 資 源 価 値 の 化	③ 里 山 遊 び 場 と し て の 健 康 、 教 育 、	④ モ デ ル の 推 進 働	⑤ 育 成 新 規 担 い 手 の
里山整備	1 - 1	里山整備計画及び 森林経営計画	① 里山整備計画	●				
			② 広葉樹を含めた森林経営計画		●			
	1 - 2	里山整備及び 維持管理事業	① 里山整備	●			●	
			② 維持管理	●				●
			③ 森林空間活用			●		
			④ 里山体験拠点			●		
	1 - 3	里山整備講座及び 整備団体による維持 管理事業	① 里山整備担い手育成	●				●
			② 里山維持管理への支援	●				●
森の さんぽ道	2 - 1	「みのかも健康の森」を 起点とした 遊歩道整備等	① 遊歩道整備準備	●	●			
			② 遊歩道整備	●	●			
			③ 遊歩道維持管理	●	●			
	2 - 2	「森のコンシェルジュ」	① 「森のコンシェルジュ」			●		
			② 自然歩道マップ		●			
里山資源	3 - 1	「美濃加茂市産材」 として「アベマキ」「竹」を 活用	① 「学校机プロジェクト」		●		●	
			② 「竹」活用		●		●	
			③ 樹種調査及び広葉樹の木材生産林推進		●		●	
	3 - 2	アベマキをはじめとする 美濃加茂市産材製品の 多様化	① アベマキ製品の流通		●		●	
			② アベマキ木材生産林		●		●	
			③ その他広葉樹の製品化研究の推進		●		●	●
	3 - 3	里山資源を活用した 企業連携	① 市内の里山と企業連携			●	●	
			② 最先端技術の活用			●	●	
	3 - 4	森林空間活用 (森林サービス産業)	① 学びの場			●		
			② 癒しの場			●		
			③ 多様な森林空間利用		●	●		●
学び	4 - 1	森のようちえん	① イベント型「森のようちえん」			●		
			② 保育園等による里山資源の利用推進			●		
			③ 団体活動支援			●		●
	4 - 2	学びの場	① 校外学習の場			●		
			② 体験学習の場			●	●	
	4 - 3	木育推進	① 「木育ひろば」の設置、出張開設		●	●		●
			② 木工体験			●		●
			③ 木のおもちゃ購入補助事業実施		●			
			④ 美濃加茂市産材のおもちゃ制作		●		●	
			⑤ 「木育スタート事業」		●		●	
里山農業	5 - 1	里山農業	① 里山整備＋農業	●	●			
			② 堂上蜂屋柿の里の整備		●			
森林公園 等の活用	6 - 1	森林公園等の活用	① 里山体験の場			●		
			② 都市部での里山体験			●	●	●

■本計画の KPI

本市では、里山について、「美濃加茂市第 6 次総合計画（後期基本計画）」で KPI（重要業績評価指標）が設定されています。本計画では、以下に示す KPI を設定します。

美濃加茂市第 6 次総合計画における KPI

成果目標	現状 (R5)	目標 (R11)
◎有害鳥獣被害額	19,900 千円	13,000 千円
◎地域住民による里山を整備する団体数（累計）	18 団体	23 団体

本計画における KPI

基本政策	成果目標	現状 (R5)	目標 (R11)	目標 (R16)
里山の整備	◎里山林整備事業及び環境保全林整備事業面積	612.40ha	840ha ^{※1}	1,100ha ^{※1}
里山の資源活用	◎美濃加茂市里山千年構想推進業務補助金利用件数	34 件	120 件 ^{※2}	220 件 ^{※4}
整備後の里山利活用	◎みのかも健康の森来園者数	68,310 人	74,000 人 ^{※3}	75,000 人 ^{※3}

（※1）平成 26 年度からの合計

（※2）本計画期間（前期）の合計

（※3）単年の数値

（※4）本計画期間の合計

基本計画実施プログラム

本計画に基づく政策を実現するため、前期の 5 年間で実施する事項の具体的な取組を示しています。

計画的な里山整備だけでなく、里山整備後の森林空間を維持管理の一環として利活用するため、「里山千年構想」を基に以下の実施プログラムを行います。

実施プログラムは永続的に続くものですが、後期については、前期の取組の実績を踏まえながら適切な対応が実施できるよう見直しを行います。中期の成果目標や中期計画を策定し、里山事業展開を目指した目標を定めています。

◆ 里山整備

持続可能な里山整備の仕組み

◆ 森のさんぽ道

四季を五感で感じる里山

◆ 里山資源

里山産資源の発信と有効活用

◆ 学び

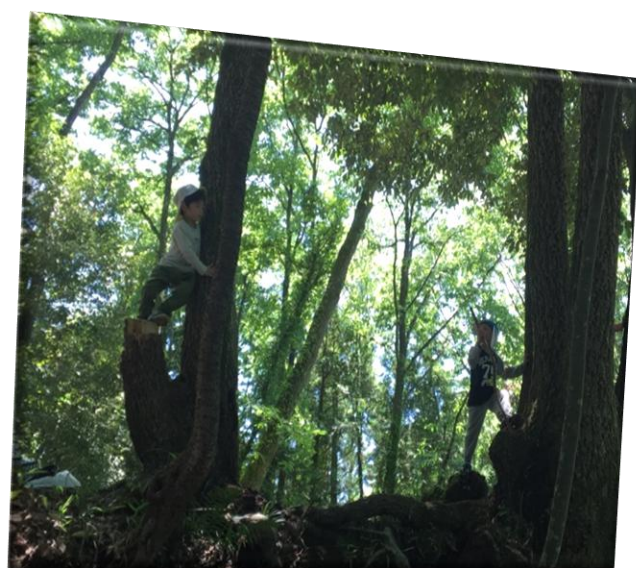
こどもたちの笑顔があふれる里山

◆ 里山農業

実りある農地が広がる里山の風景

◆ 森林公園等の活用

里山のくらしを楽しむ交流拠点



持続可能な里山整備の仕組み

人が入らなくなったことで荒廃した里山は、野生動物の住处となり、農作物被害の増加に繋がっています。人が入らず放置された里山の林道周辺では不法投棄が増加し、その周辺の里川や農地の水環境への影響が危惧されています。このような課題を解決するためにも、荒廃した里山整備する必要があります、計画的に里山整備を行います。

また、多くの人々が里山に関わりをもつ機会を作ることによって森林所有者だけでなく地域の手で維持管理をするという意識の向上を養い、持続可能な里山整備の仕組みを作りあげ、災害の少ない安全な暮らしを実現します。



1 市内の里山整備

今まで森林所有者が個々で管理していた森林を面として管理するために、地域住民等の意向を踏まえ、地域にあった整備計画を立てます。

地域住民や森林の所有者等と調整しながら整備区域を決定し、計画において想定される活用方法を前提に、区域内の里山の状態やその他の施策を考慮して整備内容を考えます。併せて整備後の維持管理への協力を依頼するとともに、森林にある樹木等の活用を進めること、多くの人々が自由に出入りできるよう、開かれた里山とすること等、里山の利用に関する協定の締結を行います。

また、各企業の特色や技術を活かしながら地域にあった整備をすることで、多様な視点からの森林空間の活用について企業とともに生み出していきます。

2 持続可能な里山のための担い手育成

整備が行われた里山を再び荒れた山に戻さないため、整備後も定期的な維持管理が必要となります。森林整備を進めることで維持管理の範囲が広がり、その作業は膨大なものとなります。行政や森林所有者だけでその役割を担うことは不可能で、地域住民の協力が必要です。

そのため、地域住民を含む市内外の人たちの中から里山の整備に関心のある人を対象に里山整備講座を開講し、里山整備のノウハウ体験や木材をはじめとした里山の利用について学んでもらいます。里山での作業は一人ではできないことも多いため、講座を通して知り合った人同士が整備をすることで、森林所有者だけでなく地域住民や整備団体が企業と協働して里山を維持管理する仕組みづくりに取り組みます。

事業名	里山整備計画及び森林経営計画		
事業目的	地域住民の意向を踏まえ整備区域の決定後、森林所有者及び地域住民や専門家と協議しながら、森林経営計画をはじめ、地域住民による整備後の持続可能な維持管理の仕組みを作り上げます。		
事業内容	① 里山整備計画 ・整備個所選定 ・森林所有者、地元との協議 ・里山整備後の地域住民による維持管理の定着 ② 広葉樹を含めた森林経営計画 ・個所選定、樹種調査 ・森林所有者意向調査、協議 ・森林経営計画の策定に向けたモデルケースでの事業実証		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 里山整備計画 ② 広葉樹を含めた森林経営計画		



事業名	里山整備及び維持管理事業		
事業目的	地域住民や森林の所有者等と調整しながら整備区域を決定し、計画に沿って想定される活用方法を前提に、区域内の里山の状態やその他の施策を考慮して整備内容を考えます。また、企業との連携を図りながら地域にあった整備をすることで、多様な視点からの森林空間の活用について企業とともに生み出していきます。		
事業内容	① 里山整備 ・清流の国ぎふ森林・環境税による森林整備 ・企業と連携した森林整備（企業林等） ② 維持管理 ・整備団体・森林所有者・地域住民による維持管理 ・「森のさんぽ道」を活用した人が里山に入ることによる維持管理 ・やぎさん除草による里山の維持管理 ③ 森林空間活用 ・教育の場として活用 ④ 里山体験拠点 ・里山くらし体験（里山シュール事業）		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 里山整備		
	② 維持管理		
	③ 森林空間活用		
	④ 里山体験拠点		



事業名	里山整備講座及び整備団体による維持管理事業		
事業目的	森林所有者だけでなく、地域住民、整備団体、森林組合、学校、企業及び行政等が協働して整備することで、自分たちで里山を作り上げ、地域の手で再生するという意識の向上が生まれ、持続可能な里山整備の仕組み作りを目指します。		
事業内容	① 里山整備担い手育成 ・ 里山整備講座実施 ・ 地域住民との里山整備の実施 ・ 整備活動のフィールド検討及び提供 ② 里山維持管理への支援 ・ 里山整備に関する実費補助 ・ 薪活用推進（地域薪を利用する薪活用推進事業） ・ 里山関係者が交流する新たな仕組の検討		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 里山整備担い手育成		
	② 里山維持管理への支援		



四季を五感で感じる里山



これまで薄暗く立ち入る事さえ難しかった荒廃した森林を、里山整備することで明るく気軽に散策できる環境に再生します。

その森林空間を活用しながら維持管理することで、里山に多くの人が訪れ気軽にウォーキングなどを楽しむことのできるコースとなり「里山に入ると健康になる」環境づくりを目指します。

1 「みのかも自然歩道」

荒廃して通らなくなってしまった里山道をみのかも健康の森を起点とする「遊歩道」として整備し、市内の里山を歩いて巡ることができる「みのかも自然歩道」を作ります。

地域住民とともに里山整備を進める中で、使われていない遊歩道や作業道などを整備し、整備されたコースをウォーキングマップにすることで、四季を通して色づく里山を楽しめるようにします。

2 「ぎふ清流里山公園」と「みのかも健康の森」を繋いだ新たな観光資源

本市の観光地でもあるぎふ清流里山公園を訪れた観光客にも里山風景を体験してもらえるように、ぎふ清流里山公園とみのかも健康の森を里山道で繋ぎ、一体的な利用を検討します。これにより、「歩く」という新たな観光資源として都市圏からの訪問客を呼び込むことを目指し、公共交通も含めた関係機関と調整を行います。



事業名	「みのかも健康の森」を起点とした遊歩道整備等		
事業目的	・ 里山を整備することで、これまで使われていなかった昔の歩道や作業道を有効に活用し、遊歩道を整備します。将来的には、奥山自然歩道など市内の里山すべてがつながる遊歩道コースを設置し、人々が気軽に散策できる「みのかも自然歩道」を作ります。 ・ また、みのかも健康の森を起点とする道を整備することで、みのかも健康の森の集客にも繋がります。 ・ 新たな観光資源としてぎふ清流里山公園を「里山玄関口」とし、ぎふ清流里山公園内の未利用地内にウォーキングなどができるコースを整備するための協議をしていきます。		
事業内容	① 遊歩道整備準備 ・ 遊歩道予定ルート選定 ・ 森林所有者確認、事業説明会 ・ まちづくり協議会協議 ② 遊歩道整備 ・ 事業説明会 ・ 森林所有者個別説明、協定 ・ 整備実施 ③ 遊歩道維持管理 ・ 維持管理事業実施 (里山整備講座、ウォークイベント等)		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 遊歩道整備準備		
	② 遊歩道整備		
	③ 遊歩道維持管理		



事業名	「森のコンシェルジュ」		
事業目的	・市内の里山をフィールドに、里山の中を歩き、里山の楽しみ方、里山の木々たちの働き等を伝える「森のコンシェルジュ」の活躍の場をつくります。 ・日常的にウォーキングができる環境を推進するためのマップを作成及び更新します。		
事業内容	① 「森のコンシェルジュ」 ・関係機関協議（管理道等選定） ・森林所有者等との協議 ・「森のコンシェルジュ」の育成 ② 自然歩道マップ ・みのかも自然歩道マップの作成及び更新		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 「森のコンシェルジュ」 ② 自然歩道マップ		



里山産資源の発信と有効活用



里山の価値をもう一度見直し、山や森林を資源の供給源としての価値ある財産と考え、その活用について検討していきます。

かつては自然と共に歩む生活が営まれてきた里山。しかし生活様式が変わり電気のない生活は考えられない時代となりました。こうした生活様式の変化はあっても、自然と共に生きていることを実感できる空間、自然からの恩恵を改めて考えることができる空間を創造することで「地山地消」の持続が可能な里山の姿を目指します。

1 「美濃加茂市産材」の推進

本市には広葉樹が広がる里山の中でも「アベマキ」も多くあり、里山再生の象徴として「美濃加茂市産材」として利活用する方法を考えています。現在、その樹木を利用した木製品をふるさと納税の返礼品等に活用しており、「美濃加茂市産材 アベマキ」を生産・保全ができる里山を目指しています。

また、里山整備で発生する「竹」についても、新たな活用方法を研究、調査、資源活用に協力してくれる企業等と連携して竹を活用した商品の開発を目指します。

2 「森林空間の活用」を推進

以前の里山は、人々が生活に必要な資源を維持するために整備されており、その供給物で自給自足の生活が営まれていました。里山は生活に必要な空間であり、子や孫に残していけるよう常に手入れが行われ、整備が継続的に行われていました。しかし近年の生活様式の変化によって次第に放置され、先代から受け継がれた里山は荒廃してしまいました。昔の生活様式に戻ることは不可能であっても、これからの時代に向けた新しい森林空間提案を発信し里山の価値を高めることで、再生された新しい里山を次の世代に残していくことを目指します。

事業名	「美濃加茂市産材」として「アベマキ」「竹」を活用		
事業目的	本市の里山には広葉樹が多くあり、その中でも多くある「アベマキ」を中心に広葉樹を地域材として利用した木製品を作りあげることで「美濃加茂市産材」として広く PR します。 小学校を対象に「アベマキ」と「地域材」を活用した「学校机プロジェクト」を実施します。 また、伐採した竹を破砕したチップを活用して新たな製品製造を連携企業とともに研究を推進していきます。		
事業内容	① 「学校机プロジェクト」 ・山之上小学校で「アベマキ」を活用した事業を実施 ・伊深小学校と三和小学校で「アベマキ」と「地域材」を活用した事業を実施 ・ほかの地域の小学校へ展開を検討 ② 「竹」活用 ・竹チップを活用した吹付の研究、実証実験 ・竹チップの吹付が有害鳥獣被害防止に繋がるかの調査、研究 ③ 樹種調査及び広葉樹の木材生産林推進 ・樹種調査 ・森林経営計画の策定		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 「学校机プロジェクト」		
	※ウッドデザイン賞、 キッズデザイン賞受賞		
	② 「竹」活用		
	③ 樹種調査及び広葉樹の木材生産林推進		



事業名	アベマキをはじめとする美濃加茂市産材製品の多様化		
事業目的	広葉樹が広がる里山の中で、代表的な「アベマキ」を使った木製品をふるさと納税の返礼品に活用しています。この活用により「美濃加茂市産材 アベマキ」の生産・保全ができる里山に繋げていきます。 また、その他の広葉樹についてもそれぞれの樹種の特徴を活かし、製品化を研究することで、美濃加茂市産材の製品を多様化させることを目指します。 広葉樹の製品化を推進することで、広葉樹の多い市内の里山の新たな森林の資源価値を高めます。		
事業内容	① アベマキ製品の流通 ・ふるさと納税返礼品への活用 ・展示会等の PR ② アベマキ木材生産林 ・広葉樹を含めた森林経営計画策定 ・苗木生産（みのかも定住自立圏共生ビジョン事業） ③ その他広葉樹の製品化研究の推進 ・薪やしいたけ原木の活用 ・製品化の研究		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① アベマキ製品の流通		
	② アベマキ木材生産林		
	③ その他広葉樹の製品化研究の推進		



事業名	里山資源を活用した企業連携		
事業目的	最先端技術を持つ企業と連携し、市内の里山を活用して持続可能な社会を考える人材を育成します。また里山の価値と保全の必要性を市民や市外に広く発信することで、市民が里山を「地域の宝」として誇りに思えるようにします。この取組により農林業の担い手を育成し、地域ビジネスの創出に繋げていきます。		
事業内容	① 市内の里山と企業連携 ・ 里山事業への企業参加 ・ 里山資源活用調査、研究等（竹チップ吹付） ② 最先端技術の活用 ・ 農林業のスマート化		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 市内の里山と企業連携		
	② 最先端技術の活用		

事業名	森林空間活用（森林サービス産業）		
事業目的	里山資源は、里山整備から生み出される伐木のみに注目するのではなく、森林自体の資源価値を活用した産業づくりが求められています。また人々の価値観が「経済的な豊かさ」から「心の豊かさ」への変化や、企業としても「働き方改革」や「健康な経営・健康への投資」などへの変化が見られます。このような変化により企業経営や生活の価値観が森林空間を積極的に活用しようというニーズに繋がりはじめています。 森林の有する空間に着目し、他産業と結びつけることで多様な森林空間利用を推進し、事業展開する「森林サービス産業」に繋がります。これによって新たな森林の資源価値を高めます。		
事業内容	① 学びの場 ・森のようちえん、木育ひろば ・森のしょうがっこう ・グリーンウッドワーク ・森林整備WS等 ② 癒しの場 ・森の居場所 ・フォレストキャンプ等 ③ 多様な森林空間利用 ・森のオフィス ・トレイルランニング等		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 学びの場		
	② 癒しの場		
	③ 多様な森林空間利用		



こどもたちの笑顔があふれる里山

市内のこどもたちだけでなく、名古屋など都会のこどもたちも対象に、「木育」をターゲットとした活気ある里山をつくります。

整備された里山の中で「森のようちえん」「自然体験学習」など里山での様々な体験を通して、自然を愛しみ、大切にすることを育むことを目指します。こどもたちがこの自然をいつまでも大切に守ってくれるような大人に成長するための「学びの場」を提供します。



1 「森のようちえん」

整備した里山で「森のようちえん」を開園し、自然体験を重視した保育を行う場をつくります。

「森のようちえん」では、従来の保育園・幼稚園で行われている設定保育とは異なり、時間や空間を制限せず、こどもたちの思いを尊重して、自然の中でこどもも主体の保育を展開していきます。

また、保護者が自主的に実施している「森のようちえん」に対して、連携した「里山体験」の実施や支援も行っていきます。

2 校外学習の場と自然ワークショップ

整備された里山を、保育園や小学校の校外学習の場として活用します。こどもたちが貴重な植物や昆虫について学ぶことで、それらを守っていくためにも大切な里山を存続していく必要があることも学んでいきます。



また、地域の方々や地元の企業の方々を講師として迎え、自然の中ならではのワークショップを行います。樹木の伐採などの林業やしいたけ作りなどの農業、昔の遊びやくらしの体験など、里山の中で体験し、消えつつある昔の技術や知識を体験しながら学ぶ機会を作ることで、「美しい里山風景を残してほしい」という願いと共に次の世代へと伝えていきます。

事業名	森のようちえん		
事業目的	整備された里山の中で「森のようちえん」を開催し、自然体験を重視した保育を行い、また支援します。 「森のようちえん」では、遊具など人工的に作られたものがない里山内でこどもたちが自分たちで考えながら遊びをつくりだし、こどもたちの思考力や創造力が育まれます。また自然の中で過ごすことによって自然を大切にする事を学ぶ場にもなっています。		
事業内容	① イベント型「森のようちえん」 ・ 企業林内で開催（企業との連携開催） ② 保育園等による里山資源の利用推進 ・ 園周辺の自然環境や里山資源を活かした遊び中心、こども中心の保育の推進（里山保育） ③ 団体活動支援 ・ 里山を園庭として利用 ・ 枝や落葉等の資源の利用		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① イベント型「森のようちえん」		
	② 保育園等による里山資源の利用推進		
	③ 団体活動支援		



事業名	学びの場		
事業目的	整備された里山を学びの場として利用します。里山内で貴重な植物や昆虫について学び、樹木の伐採や植樹、しいたけ作り等を体験しながら学ぶことで、昔の技術や知識を次の世代に伝える場にします。 また、里山での生活体験をまとめる機会を設け、現在失われつつある里山の生活を次の世代に繋げる場としても活用します。		
事業内容	① 校外学習の場 ・市内小中学校の校外学習の場 ・森の中の授業 ・乳幼児学級等イベント利用 ・社会見学、遠足利用 ② 体験学習の場 ・樹木の伐採体験、植樹体験 ・自然観察会 ・里山での生活体験「聞き書き」		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 校外学習の場		
	② 体験学習の場		



事業名	木育推進		
事業目的	地域の木を使ったおもちゃを置くことで、こどもたちに木の香り、ぬくもり、手触り、木によって重さの違いがあること等、本当の木に触れる体験をしてもらいます。そのために「木育ひろば」を設置します。 またイベント時には「出張木育ひろば」を開設し、木のおもちゃだけでなく、簡単な木工体験を実施してこどもたちの創造力を養います。 どちらも地域の木を使うことで「木材の地産地消」となり、美濃加茂市産材を使ったおもちゃ制作に繋がります。		
事業内容	① 「木育ひろば」の設置、出張開設 ・みのかも健康の森 ・図書館 ・リオラ横広場 ・子育て支援施設 ・みのかも健康の森でのイベント等 ② 木工体験 ・グリーンウッドワーク ③ 木のおもちゃ購入補助事業実施 ④ 美濃加茂市産材のおもちゃ制作 ⑤ 「木育スタート事業」		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 「木育ひろば」の設置、出張開設		
	② 木工体験		
	③ 木のおもちゃ購入補助事業実施		
	④ 美濃加茂市産材のおもちゃ制作		
	⑤ 「木育スタート事業」		



実りある農地が広がる里山風景



本市には、山之上の梨や堂上蜂屋柿など、全国に誇れる果物や里山が育んだ環境で大切に育てられたおいしいお米など農作物がたくさんあります。

これらの農作物を広く PR するため、里山整備で伐採した木材のチップを堆肥として利用し、「地元の里山を整備して作った農作物」や「里山が育んだ農作物」として新たな視点で発信します。

また、「堂上蜂屋柿の里」を作り、堂上蜂屋柿をはじめとする本市の特産品の果物を広く PR します。

1 「里山農業」としての新たな視点

本市は、農地と里山が一体となって広がっています。そこで、里山整備で伐採した木材や竹チップを堆肥として活用し、里山整備と農業が循環できるシステム構築を推進します。

また、木材チップや竹チップを活用することで農地の草刈り負担を減らし、低炭素な農作物ができることを研究し、本市から「里山農業」を広く発信します。

2 「堂上蜂屋柿の里」



里山に育まれた堂上蜂屋柿をはじめとする本市の果物を広く PR するため「堂上蜂屋柿の里」を作ります。

本市は冬でも晴天の日が多く、奥美濃で雪を降らせた乾風が吹き下ろすため、秋に収穫した柿を干しあげるには最適な気候です。

堂上蜂屋という品種の柿を伝統の技によって干柿に加工し、その技と味は千年も昔から現在まで受け継がれています。そして、これから千年先にまで変わらず受け継がれていくように、堂上蜂屋柿を守りぬく場所をつくります。

事業名	里山農業		
事業目的	里山整備で発生する木材や竹をチップ化して農地に堆肥として活用します。竹チップを用いた吹付（竹チップによる雑草の成長抑制）も取り入れ、農地の草刈り等、農作業の負担を軽減し、里山と共存した「無農薬」や「高付加価値」の農業を目指します。		
事業内容	① 里山整備＋農業 ・伐木のチップを堆肥として活用 ・竹チップ吹付実施 ・有機栽培 ・企業との連携 ・里山農業実験ラボ ② 堂上蜂屋柿の里の整備 ・場所の選定 ・JA、堂上蜂屋柿振興会等との事業内容協議 ・堂上蜂屋柿の里（PR 館） ・堂上蜂屋柿の加工体験		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 里山整備＋農業		
	② 堂上蜂屋柿の里の整備		



● 森林公園等の活用

里山のくらしを楽しむ交流拠点

みのかも健康の森の施設をさまざまな事業展開の活動拠点として活用します。

この施設は活動の中心であると同時に里山遊歩道の起点ともなります。ここに集うことで里山の魅力を体験する場として広く活用していきます。

また、将来的には里山のくらしが体験できる場を設置し、都市圏からの観光客を呼び込み、定住につなげていきます。

1 里山体験の拠点となる施設

みのかも健康の森の施設を里山体験活動拠点として位置づけ、グリーンウッドワークや木工体験等、里山体験の場として活用します。また、東山森林公園下米田さくらの森も遊歩道のウォーキングやトレイルランニングコースの入り口として活用します。



地域材活用拠点である旧櫻井邸を地域の木材や里山の文化に触れられる場所としていきます。

里山暮らしのよさを感じて、本市の里山に住みたいと感じてもらおうきっかけづくりができます。

2 里山のくらし体験

みのかも健康の森だけでなく、施設周辺の里山で「里山のくらし」が体験できる場所として位置づけます。

薪を割る、薪でご飯を炊く、伐採後の竹で生活用品を作る等、こどもだけでなく大人も楽しめる体験を提供します。「里山のくらし」は昔から代々受け継がれてきた「里山とともに生きる」生活です。少しでも体験を通して知ってもらうことが里山の保全に繋がると考えます。

こういった里山文化を楽しみながら体験して伝えていくことが、交流拠点での「里山文化の伝承」となります。

事業名	森林公園等の活用		
事業目的	みのかも健康の森、東山森林公園下米田さくらの森、旧櫻井邸をさまざまな事業展開の活動拠点や里山体験の場として活用します。里山の拠点施設となるみのかも健康の森で、近隣の里山整備で伐採した樹木を使って薪を使った体験や「しいたけの原木づくり・菌打ち体験」を行う事で、里山資源の活用を促します。		
事業内容	① 里山体験の場 ・ 交流の場 ・ 薪割り体験、しいたけの原木づくり・菌打ち体験 ・ 里山のくらし体験 ・ 周辺の里山活用 ② 都市部での里山体験 ・ 木工体験 ・ 里山体験を防災訓練に位置付けたイベントの実施		
スケジュール	H27～R6	R7～R11	R12～R16
	① 里山体験の場		
	② 都市部での里山体験		





